

第1回 中富良野町景観計画策定委員会 議事概要

◎日 時 令和3年12月9日(木) 午後6時00分～午後7時30分
◎場 所 中富良野町役場 第1・2会議室
◎出席者 策定委員会：大矢委員、細川委員、内田委員、長谷川委員、本間委員、荒木委員、安井委員、
畠尾委員、菅委員、遠國委員
※ 欠席(細川委員)
オブザーバー：中富良野町建設水道課 高橋課長補佐
事務局：小松田町長、中島副町長、 中富良野町企画課 酒井課長、松本係長、筒井係長
コンサルタント会社：㈱KITABA

1. 開会

2. 委員委嘱

3. 中富良野町長挨拶

4. 委員紹介(自己紹介)

5. 委員長、副委員長の選出

- ・ 大矢二郎氏を委員長、長谷川盟氏を副委員長に選出。

6. 議事

■アンケート調査について

委員

- ・ アンケートの結果について、中富良野町の景観に関し、「まあまあ魅力を感じる」方と「魅力を感じる」方の差の理由は見えるのか。

事務局

- ・ アンケート結果については、今後クロス集計も実施予定なので、「まあまあ魅力を感じる」と答えた方が自由回答でどんなことを言っているかなど、より詳細の分析をしていきたい。

委員

- ・アンケートについて、回収数はわかったが、発送した枚数はどのくらいだったのか。

事務局

- ・全世帯に配布しているのので、2020部程度配布している。その他、町のホームページに掲載した。

委員

- ・アンケートについて、自由意見などが現在は一部抜粋となっているが、全部を見る機会があるのか。大事な意見や埋もれている意見を組み合わせることで、計画に反映できることがある。

■「景観」の捉え方について

委員

- ・「景観」と「景色」の概念上の違いはあるのか。

委員長

- ・ほぼ重なっている概念である。
- ・「景観」を辞書で引くと、外にある色々な対象を視覚的に認識して、人間がどう感じるか、どう見えるか、人間と対象との関係で生まれるのが景観とある。
- ・景観には自然景観と文化景観がある。中富良野の景観として重要だと思っているのは、背景にある十勝岳連峰で、人の手が入っていない典型的な自然景観。
- ・一方、手前にある畑や市街地は明らかに文化景観。人の目にその二つが同時に情報として入ってくる。これは得難い町の特徴である。
- ・「景観法」という法律が2004年にできたが、私が子供の頃は景観という概念が一般的ではなかった。
- ・京都や奈良のように数百年の歴史があり、価値のある対象が集積しているまちに比べ、一般的な市街地の景観はそのままで魅力のあるものにはなりにくい。
- ・日本の街には電柱や電線が当たり前のようにあるが、例えば、デンマークでは、数百人が住む小さな村でも電柱や電線を見せない。彼らにとってそもそも電線は地中を通すものなのだ。
- ・美瑛町の本通では電柱電線が見えない。90年代の初めに市街地の土地区画整理事業に関わった際、本通からは電柱電線をなくそうということになったが、全ての通りを地中化するのは資金的に難しかった。そこで一部は裏道から電線を引き込むことで解決した。

委員

- ・説明資料にも景観や風景、色々な言葉が出てくる。この委員会をスタートするにあたって、この委員会の皆さんと景観について考え方を共有したい。景観という言葉をもっと簡単に理解できないか。
- ・「5S」というものがある。仕事に必要な「整理・整頓・清潔・清掃・躰」だ。景観を何か積極的に創って、整えるという方法もあるが、日々の生活の中で、例えば、道に落ちているゴミを拾ったり、雪はね道具を夏の間は片付けたり、そのようなことに少し配慮するだけで、景観は変わってくる。
- ・地域の人たちが互いに挨拶する、お祭り、ビールパーティ、雪まつりなどに住民が参加し、楽しみに

して生活している、その雰囲気も景観には大切。

- ・ 景観の5Sを実践していたら、景観が後からついてくるのではないかな。

委員長

- ・ 言われる通り、暮らしている、働いている人々も景観の対象になる。例えば、農作業している人を見るという経験も景観の要素として大切なものだ。

委員

- ・ 景観と景色は違うのか。どのように考えたらいいかと思っていた。
- ・ 中富良野町には中富良野町の歴史があって、電柱ひとつにしても、日本の歴史ではヨーロッパと違って、建てるのを当たり前としてやってきた。その歴史の違いが景観にも大きく影響している。

■景観まちづくりの進め方について

委員

- ・ アンケートを見ると、魅力を感じる理由と感じない理由として、遮るものが「ある」と魅力を感じる人や遮るものが「ない」と魅力を感じる人がいる。
- ・ ゴミ屋敷の例だと、あれは汚いという人と、資源だという人がいる。それぞれの価値観をすり合わせていく、というのは大変なことだ。

委員

- ・ 農家も昔は8割の農家が水稲栽培だったが、今はハウス栽培など多彩になっている。農家によっては農機具をそのまま放置していたりすることもある。
- ・ 例えばD型倉庫がある。10～15年でペンキを塗り替える。その場合には助成金を出すなどすると色を揃えやすいかもしれない。まちのシンボルカラーを定めていく方法もあるだろう。
- ・ 色々な意見を聞いてからでないと合意は難しいと思うが、基幹産業が農業のまちなので、農業景観を守ることは取り組みたい。

事務局

- ・ 価値観の違いや見方の違いからくる溝をできるだけ埋めていく場面が必要になるが、今回も色々な方法で、できるだけ多くの人の意見を聞くことを心がけている。委員会もその一つだが、アンケートやワークショップもその一環。そのほか子どもに意見を聞く機会も設ける予定である。
- ・ 好きか嫌いかだと個人の好みは分かれるので、中富良野の10年後どうだったらいいか、子どもたちにどんなことやものを残したいか、そのようなことやものを皆さんと探していきたい。

委員

- ・ 私たちは価値観や考え方が違うこともあるだろうから、自分が正しいと思うことを押し付けない、で、

しっかりと意見交換をしながら互いに理解して進めていきたい。

- ・ 山並みが綺麗、田園風景が綺麗というのは私たちが普通だと思ってきたこと。星や夕日が綺麗というのも、私たち農家にすると普通のことだ。
- ・ 町外の方が中富良野町を訪れた際は、それぞれのストーリーを作っていると思う。四季折々の花や農作物の色とりどりの変化、山の四季を良い景色と感じている。アンケートを見て、自分たちが普通だと思っていることを美しいと思っている人が多いと感じた。
- ・ 日々の営みが第一にあると思う。今あるものの大事さや価値を再確認した上で、ルールとして強制したり、差別的なことを考えるのであれば、そこはよく議論すべきである。
- ・ 色ひとつについても、ヨーロッパの屋根の赤は、地域の土の色。日本は色々な形、色彩が容認される自由主義。ルールを定めるのは、危険性もあるのではないか。
- ・ ルールやその必要性については再確認して進めていく必要がある。

委員

- ・ 色を統一するにしても、持続可能なものにしてほしい。旭川や士別の流雪溝は作った時は良かったが、今は空き店舗も増えて現実には除雪をしており、流雪溝を使っていない。
- ・ 今後、人口が減っていくことを踏まえた上で、そのルールが維持できるものであって欲しい。

委員

- ・ 「中富良野はラベンダーの地」というのは誰しもの感じると思うが、私が初めて中富良野にきたときに、その印象をあまり受けなかった。原因は、ラベンダーの他に目立つものが多いからではないか。ラベンダーやその他の自然もそうだが、街中にあると埋もれやすい。
- ・ 中富良野はラベンダーの町だからといって、色々なものをラベンダー色にするのはどうかと思う。一番見せたいものは何かを見直し、それを見せる努力を最大限することが大切である。
- ・ SDGs への対応に関して中富良野はこれからという気がしている。自然だけでなく、持続可能なものに対して、積極的に取り組むことは大切だと思う。取り組みやすいところで、公共物や公共施設、家の外壁に木材や自然素材を使っていけたら良い。
- ・ ニセコ町や下川町で、自治体が SDGs モデル事業というものに選定され、いい循環で回っている。中富良野町もその方向へ力を入れると良い。この計画策定をチャンスと捉えて、良い町にしていきたい。
- ・ 今後の話だと思うが、行為の制限については一番慎重に進めなければいけない。かといって何もしない骨抜きなことをしても仕方がない。
- ・ この地域で無秩序な開発が行われようとしているのがこの発端と聞いている。そのようなものには厳しいルールで対処する必要がある。
- ・ 何もかも厳しくするわけにはいかない。生業に関わることもあり、景観のルールに縛られた結果、収入が減るなどということがあってはならない。ガチガチに強制するものではなくて、中富良野の基準で、厳しくするものとそうでないものを決めて、商売の人にはお願いベースとする、協力した方には補助をするなどという方法が考えられる。
- ・ 自分自身、アンケートに書いたが、モデル地区を用意できるのであれば、そこでしっかりとした基準を実践していくのがいいと思った。こんなに素敵になれるという実例を見てもらえる。見本がないと

想像が難しいので、モデルを示し、自主性を重んじて誘導していけると良い。

委員

- ・ 5回の委員会の中で、水源地の取得や外国資本による土地取得については、議論すべきところである。

委員

- ・ 2023年に条例施行、景観行政団体への移行の予定になっている。それ以降の景観の管理については、どのように実施していくのか。

事務局

- ・ 計画ができた後で、何らかの組織を作って、管理運営体制を整えたいと考えている。
- ・ 計画の策定がゴールではなく、スタートだと思っているので、スタートを切った後の、推進する体制や仕組みの検討が必要だと思っている。

委員

- ・ スケジュールについて。今後時間をかけて練っていくが、委員会以外に、町民の意見をもっと聞かなければいけない。
- ・ アンケートを実施したが、各エリアの具体的な意見などを聞く場面を考えてほしい。
- ・ 子供のワークショップが大切だと思っている。専門家とは別に素直な意見が出てくると思う。そこに私たち委員が参加しても良い。

事務局

- ・ 今後もワークショップを開催する予定である。町のHP等での情報発信もしながら、意見を受け付ける。色々な意見を出しやすい環境作りを考えていきたい。
- ・ 景観計画は、町の中にある課題や資源を顕在化させて、ある程度の枠組みを作る作業だと思っている。

■その他

委員

- ・ 手元に「サイン計画」の資料が出てきているが、これは景観の一要素であると思う。なぜここに出ているのか。

事務局

- ・ 景観計画は、景観に関わるさまざまなものの基本的な考え方を示すものであり、景観を構成する要素は全て対象になる。
- ・ 中富良野町ではサインについてより踏み込んだ計画づくりを考えており、景観計画とサイン計画の両方を一緒に進めていきたい。景観計画の場でも関連性について意見をいただきたい。

7. 閉会